

琉球大学病院 放射線科の西江昭弘です。琉球大学病院が宜野湾市西普天間に移設して一年が経過しました。新病院や新キャンパスで気持ちよく勤務しつつ、時折現れる諸問題に取り組んでいる今日この頃です。広報委員会での活動も4年目に突入し、1年間の沖縄県医師会のイベントについて把握できるようになってきました。委員会でも大学病院の立場から何か発信できるように貢献していきたいです。

さて本題に入りますが、今月の沖縄県医師会報では表紙写真にもインパクトがありました。「彩雲」という、これまで知らなかった自然現象で大変勉強になりましたが、実際に直に見てみたい気がしています。

沖縄県医師会の報告では5つの記事が掲載されています。その中で都道府県医師会「警察活動協力医会」連絡協議会の報告が印象に残りました。大規模災害時には受傷者を受け入れる病院としての役割や機能ばかりを考えていましたが、医師としては警察医の役割もあることと、その一方で、若手の警察医が不足している課題があることを認識しました。沖縄県に在住する上では、台湾有事などの戦事も想定した検案体制やシミュレーションをしておく必要もあるとのことで、気の引き締まる思いがしました。

日本医師会の報告では2つの記事が掲載されています。医療事故調査制度担当理事連絡協議会について、大変詳細な報告があり、医療事故調査制度（開始から約10年）の運用において、都道府県医師会がその中心的な役割を果たすための最新情報が共有されています。厚生労働科学研究では、医療事故調査制度における支援団体の機能的運用や質向上について言及されていますが、その一方で、支援団体の人材不足、支援実績や質には地域差がある点も課題であることが印象的でした。

九州医師会の報告では3つの記事が掲載されています。その中で気になったのは、経営に行き詰まった医療機関に関する注意喚起事例が挙げられ、色々な対応策や今後生じ得る問題点が討論されている記載です（建て直しに関して早期に弁護士や専門家への相談、突然の閉院に対する郡市医師会を介した入院患者の転院調整、特定グループ

による積極的な買収、仲介業者からの頻繁な接触、承継を巡る地域内の利害対立など）。現状の病院の経営困難を考慮すると、有意義な討論ではないかと感じました。

また、生涯教育セミナーでは、琉球大学病院放射線科（当科の）土屋奈々絵先生が、肥大型心筋症に対する心臓4DCTについてレクチャーしてくれています。近年の継続的なCT技術の進歩（空間分解能の向上、短時間撮影の達成）により、現在では心臓全体やその細部の動きが**4D（動画）**として評価可能となっています。マニアックな内容ですが、臨床に应用されている実際の画像情報として、ご一読いただけたらと思っています。

プライマリ・ケアコーナーでは、下地内科 下地克佳先生より「当院（一般診療所）における甲状腺疾患について 甲状腺触診の重要性」のタイトルで記事が掲載されています。私は放射線科医で、すぐに画像に頼ってしまう人間なのですが、触診で多くの甲状腺疾患を発見されている神業に憧れがあります。また、検討ではかなり以前の症例も含まれていると推察しますが、現在の事のように患者の詳細までご記憶されている点にも感銘を受けました。

次にインタビューコーナーですが、一般財団法人沖縄県北部医療財団理事長 大屋祐輔先生にお話を伺っています。北部地区の診療の問題点、公立沖縄北部医療センター開設に関する現状と将来的な構想について分かりやすくご説明されており、大変よく理解できました。

最後に月間（週間）行事のお知らせですが、2つの記事が掲載されています。その中で印象的だったのは、①禁煙は“効き始める”のが早いのが魅力的な治療であることと、②禁煙を成功させるコツは気合いよりも段取りであるという2点です。私もしばらく喫煙者であったことがあり、気合いで禁煙を行った辛い記憶が蘇ってきましたが、なるほどと納得しました。

以上、2026年5月の沖縄県医師会報をダイジェストでお伝えしました。私自身、今後より一層の地域連携を心がけていきたいと思っていますので、引き続き、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

広報委員 西江 昭弘